

男子バレーボール部 筑スポ

黄金期到来!!



東日本インカレ&東西インカレ

優勝!!

目次
2面 柔道部全国公優勝!!
東医大・ダンスフェスティバル

3面 女子サッカーフェスティバル・カヌークラブ
男子サッカーユニバ金・水泳部・新連載コーナー

4面 Pick up Player
注目選手 サークルPR
スポデー

W優勝!!

6月23日から26日にかけて行われた東日本バレーボール大学選手権(以下東日本インカレ)、7月9日から10日にかけて愛知県で行われた全日本大学男子バレーボール東西選抜優勝大会(以下東西インカレ)の両大会で、本学男子バレーボール部が見事栄冠を手にした。東日本インカレでは5年ぶり7回目の優勝となる。これまで、新たなチームの力が試される大きな大会として位置付けられていた春季リーグが震災の影響で中止になり、東日本インカレと東西インカレがそれぞれに代わる大会となった。今年の男子バレーボール部のスロウガン「全員バレー」個々が役割を果たす「の下、本学男子バレーボール部が挑戦し、輝きを見せた。東日本インカレの2日目、本学は青山学院大学、東北学院大学とそれぞれ戦い、細かいミスはあるものの、ストリートで勝利。3日目には、去年の優勝校でもあり、本学も去年敗北している相手、東海大学と対戦。相手の勢いある攻撃に呑まれ、なかなか自分たちのペースを掴めず、第1セットを落とす。続く第2セットも中盤までリードを許す展開が続くものの、前田一誠



果敢にブロックする、主将木原選手

選手(体育2年)が出場し、前田選手(体育2年)を中心に攻撃を組み立て始め、デュースにもつれ込むが、一歩及ばず、惜しくも第2セット目も落とす。第3セット目は取り返し、第4セット目の中盤以降は本学のペースで試合が進み、出末田選手のスバイクや佐々木恵三選手(体育4年)のブロックで相手の攻撃を封じ込め、セットカウントを取った。最終セットでは、佐々木恵三選手のサーブミスや久原大輝選手(体育2年)の相手のバックアタックを完璧に封じ込める活躍により相手を圧倒し、東海大学に逆転勝利をおさめた。準決勝では慶應義塾大学、決勝では日本体育大学を破り、悲願の優勝を果たした。東日本と西日本のそれぞれ上位2校、計4校が凌ぎを削り、今シーズンの前半を締めくくると、東西インカレ第1試合では、大阪産業大学と対戦し危なげなく勝利すると、続く日本体育大学にもストリートで勝利。大阪商業大学をも破り、優勝を手にした。一方、女子バレーボール部は東日本インカレでは日本体育大学と並び3位、東西インカレでは5位という結果に終わった。東日本インカレのスバイク賞にレフトの池田智美選手(体育2年)が輝いた。

選手(体育2年)が
手(体育2年)を
組み立て始め、
デュースにも
つれ込むが、一
歩及ばず、惜
しくも第2セッ
ト目も落とす。
第3セット目
は取り返し、
第4セット目
の中盤以降は
本学のペース
で試合が進み
、出末田選手
のスバイクや
佐々木恵三選
手(体育4年)
のブロックで
相手の攻撃を
封じ込め、セ
ットカウント
を取った。最
終セットでは
、佐々木恵三
選手のサーブ
ミスや久原大
輝選手(体育
2年)の相手の
バックアタッ
クを完璧に封
じ込める活躍
により相手を
圧倒し、東海
大学に逆転勝
利をおさめた
。準決勝では
慶應義塾大学
、決勝では日
本体育大学を
破り、悲願の
優勝を果たし
た。東日本と
西日本のそれ
ぞれ上位2校
、計4校が凌
ぎを削り、今
シーズンの前
半を締めくく
ると、東西イ
ンカレ第1試
合では、大阪
産業大学と対
戦し危なげな
く勝利すると
、続く日本体
育大学にもス
トリートで勝
利。大阪商業
大学をも破り
、優勝を手に
した。一方、
女子バレーボ
ール部は東日
本インカレで
は日本体育大
学と並び3位
、東西インカ
レでは5位と
いう結果に終
わった。東日
本インカレの
スバイク賞に
レフトの池田
智美選手(体
育2年)が輝
いた。

「まだ不足している」

両大会での優勝に関して、男子バレーボール部主将、木原選手(体育4年)は「優勝できたことは本当に嬉しい」と喜びを見せるものの、「それ以上に自分達の理想とするバレーをするにはまだ不足しているところが多くある」と反省の弁を述べた。その反省点として、守備攻撃の両方でのチーム内のコミュニケーション不足を挙げ、それらのミスから「自分達のリズムを崩し、自分たちが苦しい展開を作り出してしまった」と苦い顔を見せた。全体を通して、「優勝はできたが自分達の課題が多く見つかった大会だった。それをこれから練習で改善できるようにしていきます」と振り返った。9月からは秋季リーグが開幕し、12月には全日本バレーボール大学選手権(以下全日本インカレ)も控えている。「まずは秋季リーグで優勝し、その勢いのまま4年生にとつては最後の集大成である全日本インカレでも優勝を目指していきます」と力強く抱負を語ってくれた。

世界の舞台で

出末田選手・久原選手・前田選手の3名はブラジルで開催された2011バレーボール世界ジュニア男子選手権のメンバーに選出され、出末田選手はすべての試合にスタメン出場した。また、出末田選手は東日本インカレの後、ドイツに出発し、FIVBリーグ2011の全日本男子チームのエントリーメンバーとして大会に参加した。

今後も男子バレーボール部の目覚ましい活躍から目が離せない。
(明本彩美)

東西インカレ男子結果

- 1位 筑波大学
- 2位 日本体育大学
- 3位 大阪商業大学
- 4位 大阪産業大学

個人賞

- ベストスコアラー賞・スパイク賞 佐々木恵三選手(体育4年)
- サーブ賞 衛藤拓磨選手(体育4年)
- リベロ賞 白石啓丈選手(体育3年)
- 最優秀賞 出末田敬選手(体育2年)

東日本インカレ男子結果

- 1位 筑波大学
- 2位 日本体育大学
- 3位 慶應義塾大学
順天堂大学

個人賞

- サーブ賞・ブロック賞・最優秀賞 佐々木恵三選手(体育4年)
- ベストスコアラー賞・スパイク賞 出末田敬選手(体育2年)
- レシーブ賞 久原大輝選手(体育2年)
- リベロ賞 白石啓丈選手(体育3年)



大会で大活躍した出末田選手



平成23年9月20日(火) 第145号
題字: 中山雅史氏
(コンサドーレ札幌・蹴球部OB)

柔道部 全国公 世界柔道出場 銀×2 優勝

全国公

猛暑が続いた7月上旬、東京、講道館にて第53回全国国立大学柔道優勝大会が開催された。本大会は7人による団体戦の形式で試合が進み、昨年度優勝の本学は第一シードでの登場となった。

一回戦の相手は神戸大学。本学は先鋒から順調に勝利を重ね、7人全員が一つも負けすることなく神戸大学にストレート勝ちを収めた。すべての試合において、4分の試合時間を使い切るような試合はなく、早い時間帯から攻め投げ技や寝技を駆使し、快勝した。続く二回戦は弘前大学戦。こちらはストレート勝ちとはいかなかったが、大差をつけての勝利となった。

世界柔道

8月23日から28日まで、フランス・パリで開催された世界柔道選手権大会にも本学柔道部から出場を果たした選手がいた。男子66キロ級の森下純平選手(体育3年)と同じく90キロ級の西山大希選手(体育3年)、そして女子78キロ級の緒方亜香里選手(体育3年)だ。なかでも、森下選手は昨年の世界選手権で金



メダルを獲得し今大会でも注目されていた。しかし、惜しくも3回戦敗退と悔しい結果に終わってしまった。一方、西山選手は昨年に引き続き、緒方選手は昨年からの一順位を上げての銀メダル獲得となった。この3選手のほかに

も本学の卒業生が多く出場し、来年のロンドンオリンピックに向けてよい結果が残せた大会となった。

国内外で活躍する柔道部を

男子個人 優勝 医学剣道部

筑波大学の体育会には一般の部活動とは別に医学支部がある。こちらは主に医学部所属の学生で構成されている。医学部は練習に割く時間に限りがある上、6年制であるために一般の学生と幹部学年・引退学年がずれたりするなど、大会出場にも困難が伴う場合がある。そのため、医学系所属の学生のための大会が開かれている。

毎年夏に行われる東日本医科学学生総合体育大会(以下、東医体)もその一つだ。(冬季競技は冬に開催)。この大会は東日本の医学生が参加するスポーツの祭典だ。54回を数える今年は本学が主管校ということもあり、運営の仕事が多忙ではあるが、各部の活躍に期待が高まった。

8月3、4日に東京武道館にて東医体剣道競技が行われた。男子団体では初戦から本学優勝。男子個人では池田和太選手(医学5年)、安本倫寿選手(医学2年)の2人が予選2位で通過したが、決勝トーナメント1回戦でこちらも秋田大学に敗れてしまった。

大会二日目は女子個人戦からスタートした。本学の選手も予選トーナメントで3回戦まで勝ち進むなど健闘を見せたが、決勝トーナメントに進むことはできなかった。

男子個人戦では池田和太選手(医学5年)、安本倫寿選手(医学2年)の2人が予選2位で通過したが、決勝トーナメント1回戦でこちらも秋田大学に敗れてしまった。

大会二日目は女子個人戦からスタートした。本学の選手も予選トーナメントで3回戦まで勝ち進むなど健闘を見せたが、決勝トーナメントに進むことはできなかった。

医学剣道部だけでなく、たぐさんの部が上位入賞を果たした今回の東医体。勉学と部活動、この2つの両立は決して楽だとは言えないが、本学学生の文武両道ぶりが窺えた。また、どの試合も円滑な運営がされていた。入賞を果たした団体・選手、東医体運営委員会の皆さんに大きな拍手を送りたい。

(三浦加奈・田村俊和)



男子個人戦では池田和太選手(医学5年)、安本倫寿選手(医学2年)の2人が予選2位で通過したが、決勝トーナメント1回戦でこちらも秋田大学に敗れてしまった。

大会二日目は女子個人戦からスタートした。本学の選手も予選トーナメントで3回戦まで勝ち進むなど健闘を見せたが、決勝トーナメントに進むことはできなかった。

医学剣道部だけでなく、たぐさんの部が上位入賞を果たした今回の東医体。勉学と部活動、この2つの両立は決して楽だとは言えないが、本学学生の文武両道ぶりが窺えた。また、どの試合も円滑な運営がされていた。入賞を果たした団体・選手、東医体運営委員会の皆さんに大きな拍手を送りたい。

(三浦加奈・田村俊和)

東医体試合結果一覧

5位決定戦
筑波大学●13、14
○自治医科大学

【医学ハンドボール部】
男子団体
4位/筑波大学
男子個人の部
1位 池田和太
3位 安本倫寿

【医学3ヨット部】
4位/筑波大学

【医学サッカー部】
3位/筑波大学

【医学バスケットボール部】
男子
筑波大学○77、60●岩手医科大学
8月10日
筑波大学●66、84○東邦大学
8月12日

女子
8月12日
筑波大学○85、39●東京医科大学

【医学水泳部】
女子 4位/筑波大学
【医学弓道部】
7位/筑波大学

【医学バドミントン部】
男子 1位/筑波大学
【医学硬式庭球部】
男子 5位/筑波大学
女子 2位/筑波大学



ALL JAPAN in KOBE DANCE FESTIVAL

8月7日、10日の日程で行われた第24回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)に筑波大学ダンス部が出場し、NHK賞を受賞した。今回はこの受賞を受けて、ダンス部主将の藤井淳子選手(体育3年)にお話を伺った。

テーマは「白い花」を連ねて行かないで」。砂漠に輪の花が咲いている。砂漠という過酷な環境の中でも美しいその花が、何度も繰り返す困難に遭うが、それでも砂漠で生き抜いていく花を表現した。このテーマは3月の東日本大震災を元にしたもので、ダンスの随所に震災を経験して改めて思った「生命の強さ」を感じ取れる。

「生命の強さ」と震災を絡ませた難しいテーマであるが、今回のダンスで「砂漠の情景が浮かぶように群舞に入れた」と話す。群舞とはソリストと呼ばれる一人で踊る役とそれに付き添う役以外の大人数で踊る役のことである。今回は全体を覆うような布を用いて、砂漠を表現。他にもソリストがアクリルキユーブなどを用いて、より表現豊かなダンスに仕上げた。

一方で、「ダンスで表現する震災の描写を見た人が傷付いてしまうのは嫌だった。だから、自分達が真剣に震災と向き合い、震災について考え、演技っぽいダンスにならないように気を付けた」と話し、震災という難しいテーマを扱うことへの真剣さが伝わった。また、震災の影響で普段練習場所としていた、総合体育館が使えなくなったため、練習場所が変わってしまった。その影響もあり、練習時間が例年より100時間も減ってしまった。しかし、「時間が少ない中でも、きちんと練習していくかなければならない」と話す。

NHK賞を受賞した感想をお聞きしたところ、「ありがたい賞ではあるが、一位の団体へ贈られる文部科学大臣賞を受賞できなかったことは悔しい」と話した。

今回のダンスはOBGを含めた26名で踊った。ダンス部員は17名で、「部員それぞれに個性があり、楽しく踊る人が多い。思いやりを持った子が多いので、主将として楽しく引つ張っている」と笑顔で話す。

そんなダンス部は11月と3月の自主公演に向けて、日夜練習に取り組んでいる。この自主公演では今大会のダンスも披露する予定だそう。震災を元にした「生命の強さ」を訴



(小峰朱理菜・明本彩美)

女子サッカー

つくばフェスティバル



今年も大盛り上がり!!

蒸し暑さが続く、8月6日から8日にかけて、第19回全国女子サッカーつくばフェスティバルが、本学で開催された。すべての運営を本学女子サッカー部が行い、全国の女子サッカー部員が集まった。

今年は記念タオルの売り上げを東日本震災の基金に全額回す取り組みもあった。大学のリーグ戦以外にも、小学生の熱い戦いが行われた。観客も超満員で、代表選手や彼方たちのチームメイトの応援やパフォーマンスで会場は大盛り上がり。結果は、3対0で東が勝利した。大学生イベントでは、大学別の大縄大会と混合チームでのリレーが行われた。運動神経が抜群の選手たちの集まりだけに、接戦となり、見応えがあった。



チーム東の「勝利」のパフォーマンス!



大縄大会!

普段、他大学との交流が少ないだけに、非常に意義のある大会になったようだ。話題の女子サッカーの今後の発展に目が離せない。
(明本彩美・本間詩織)

男子サッカー ユニバーシアード

4名活躍!!



金メダル

なでしこジャパンが優勝し、日本中が歓喜に包まれる中、男子サッカーへの期待も大きくなる。そんな中、中国深圳で行われた第26回ユニバーシアード競技会において、男子サッカーが3大会ぶり5度目の優勝を飾った。本学蹴球部

からは4名が代表として選出され、勝利に大きく貢献した。タレント揃いの筑波大学蹴球部。選出されたのは以下の4名である。
八反田康平選手(体育4年)、瀬沼優司選手(体育3年)、赤崎秀平選手(体育2年)、谷口彰吾選手(体育2年)。

いつもとは違う雰囲気の中で、「世界を体感した本学選手たち。今年は風間監督が就任して4年目にあたる。今年こそタイトル獲得なるか。9月から始まるリーグ戦と天皇杯、そしてインカレ。チャンスを十分にある。今後の活躍に期待したい。」
なお、蹴球部公式ホームページにて、今回代表に選ばれた4名のインタビューが掲載されているので、こちらも参照されたい。(上杉織美)



日本代表として活躍した選手ら
左から順に
瀬沼選手、谷口選手、八反田選手、赤崎選手

ユニバーシアード大会結果

決勝	対イギリス代表	2-0
準決勝	対ロシア代表	4-1
準々決勝	対中国代表	3-2

競泳男子 20連覇!!

全国公

8月10・11日に行われた第58回全国公立大学選手権において筑波大学水泳部競泳男子が優勝し、団体20連覇という偉業を成し遂げた。女子は惜しくも鹿屋体育大学に敗れたが、3位以下に大差をつけての2位となった。
179.0点をあげ95.5点で2位の鹿屋体育大学を圧倒した男子。若月哲也選手(体育4年)が100m平泳ぎを大会新記録で制したほか、100メートルでは自由形で河原稔也選手(体育3年)、背泳ぎで田中耕平選手(体育4年)が優勝した。200メートルでは自由形で西山賢太郎選手(体育2年)、平泳ぎで若月選手、背泳ぎで金子雅紀選手(体育2年)バタフライで菊池皓大選手(体育2年)が優勝し、400メートルを含めた計9種目の1位を筑波大が独占した。
一方、女子は諸貫珠美選手(体育1年)が100m背泳ぎと400mリレー第一泳者の大会新記録をだし、200m背泳ぎを含めた3種目の優勝を成し遂げた。小林明日香選手(体育1年)も100m平泳ぎで優勝し、1年生の活躍が光った。男子と比べて個人優勝は少ないものの、多くの選手が上位に食い込み、総合2位という結果へと繋がった。今大会で勢いを上げた筑波大は9月2日〜4日の全日本学生選手権大会(インカレ)に挑む。(矢畑冨佳)

Sports Day 第35回秋季スポーツデー

10/22(土)・23(日) 開催!!

~最近スポーツ忘れてるんじゃない?~

カヌークラブ・女子 総合インカレ 3位

8月26〜31日に行われた、全日本学生カヌー選手権大会で、本学カヌークラブ女子が総合3位の結果を残した。主将の仲摩千陽選手(体育4年)によると、今年は総合優勝が目標だったとそう、悔しい思いが強いという。優勝までに足りなかったものは、仲摩選手曰く総合力だった。個々の能力はピカイチだったものの、出場校中最少の部員数5人で戦ったため、一つのミスが命取りとなった。今大会ではチームで戦うWK、4女子4人乗りで結果に繋がらず、優勝を逃した。しかし悔しい反面、仲摩選手は今回の結果に誇りも持っているそう。本学カヌークラブは皆カヌー大好き集団「好きなのは当たり前かも」らしいのだが、この気持ちをモチベーションや厳しい練習に上手く繋げられるチーム」と彼女が自負している。こうして一人ひとりの意識や技術を高め、強みとなっている。この普段から養った「チームの強さ」が、最少の部員数でも総合3位という誇れる結果を勝ち取ることができた要因である。これからの目標は、インカレ総合優勝。それに加え、23歳以下の日本代表チームが来年度から結成されるそう、「1人でも多く召集されるように頑張っていきたい」と仲摩選手は語る。本学の強豪カヌークラブが学生界のみならず、世界の舞台でこれら更に注目されるだろう。(斉藤千絵)



筑波大学カヌー部

トレーナーサークル Gattsu 受講生のモノ申す! Vol.1

今回の担当者 男子バレーボール部所属 市原英(体育2年)

私は男子バレーボール部に所属しております。バレーボールという競技は、スパイクでの空中動作、ブロックの素早いステップワーク、レシーブの細かい切り返し等、強度の高い動作の連続です。その為、足関節や肩関節、また腰への負担が非常に大きく、練習後のケアのみならず普段からのトレーニングでの補強も非常に重要になってきます。ガッツでは、その双方について、理論と同時に、実技も交えて学ぶ事が出来るため、すぐさま実践へと移すことができます。さらにガッツ

活動の様子

- 【柔道部】
 - ワールドカップ・マンチエスター・ローマ大会 10月1日〜2日
 - 柔道グランプリ・アプダビ大会 10月16日〜18日
 - 世界ジュニア選手権大会 11月3日〜6日
 - 11月3日〜6日
 - 講道館杯全日本体重別選手権大会 11月12日〜13日
 - 柔道グランプリ・ロッテルダム大会 11月25日〜27日
 - 11月25日〜27日
 - 【陸上部】
 - 六大学対抗大会 10月1日
 - 第66回国民体育大会 10月7日〜11日
 - 第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 10月23日
 - 第95回日本陸上競技選手権大会 10月28日〜30日
 - 10月28日〜30日
 - 【女子バスケットボール部】
 - 全日本選手権大会 11月21日〜27日
 - 11月21日〜27日
 - 【男子バスケットボール部】
 - 第63回全日本大学選手権大会 11月21日〜27日
 - 11月21日〜27日
 - 【バドミントン部】
 - 第62回全日本選手権大会 10月14日〜20日
 - 10月14日〜20日

体育会系サークルのみならず!取材希望、イベント告知等がありましたら、下記連絡先までよろしくお願いたします!!

連絡先/tsukusupo@hotmail.co.jp (担当:上杉)

スポーツの秋! スポーツ観戦に 出かけよう!!

男子バスケットボール部

第87回 関東バスケットボールリーグ戦 つくばカピオ体育館にてホームゲーム開催!

10.1(土) vs明治大・12:40~

10.2(日) vs東海大・14:20~

一般、大学生 1,000円
中学生、高校生 500円
小学生以下 無料

来場者限定! オリジナルグッズプレゼント!!

皆様の声援が選手の力となります。是非会場に足を運んでいただき応援を宜しくお願いします。

次号予告 秋季リーグ 総取材

秋のスポーツデー バスツアー...etc 12月上旬発行予定!!



戸邊直人(体育2年)

主な成績

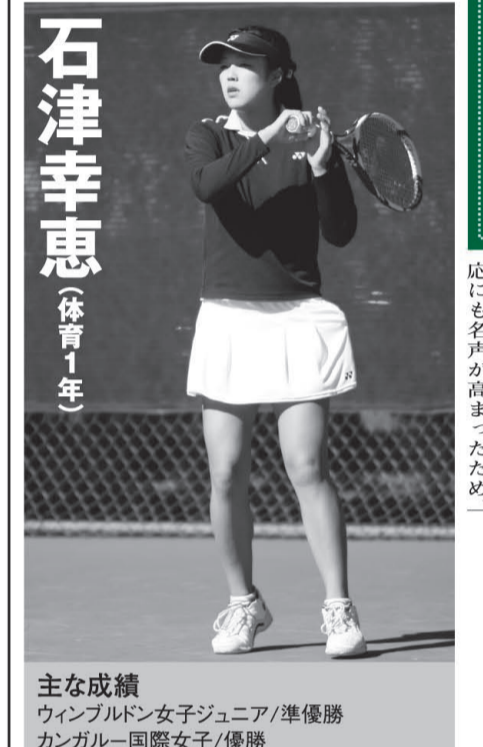
日本陸上競技選手権大会 走高跳/2m22 優勝
アジア陸上競技選手権大会 走高跳/2m21 5位
ユニバーシアード競技大会 走高跳/2m00 予選B組12位

6月12日、熊谷スポーツ文化公園で行われた日本陸上競技選手権大会。この日本一を決める非常に重要な大会において、本学の戸邊直人選手(体育2年)が見事、走高跳の優勝を決めた。そのおおよそ1ヶ月前には関東インカレの同種目にて連覇を果たし、関東学生ナンパーワンの座を確保した。その男が、わずか1ヶ月にして今度は日本一の勲章を手に入れたわけである。

この日の自身の体調について「日本選手権の時より良い」と感じていたという。その言葉通り2m21まで順調にパスしていった戸邊選手。続く高さは2m24。昨年一度跳んだことのある高さではあったが、3度の試技でいずれも超えられず、結局5位という結果に終わった。それと同時に、世界選手権への出場も叶わなかった。今年一番の目標であり、夢でもあった世界選手権出場には残念ながら手が届かなかったものの、今後も自己記録の更新へ歩みを止めるつもりはない。走高跳という競技を行う上で、198センチという比較的恵まれた身体を、今後さらに活かしていくため、助走等の技術の向上に取り組んでいる。

本学に入学して約1年半。練習の中で手応えを掴んだ部分もあるようだ。「高校時代と比較して、コーチからの指示が専門的になったので、自己分析もより専門的に行えるようになってきた」と戸邊選手は話す。また、「練習メニューも自分で考える力がつき、練習の質は上がっている」という。しかし、その一方で「練習量は高校時代から下がってしまったので、今後は量は増やしていきたい」と意欲を見せる。今年の目標として、戸邊選手はこれまでと変わらず2m28のB標準突破を掲げている。その背景にあるのは、来年に控えているロンドン五輪への出場。自己ベストから4センチ高いその数字に対して、「今年は調子が良いので、きつ(有田和晃)」

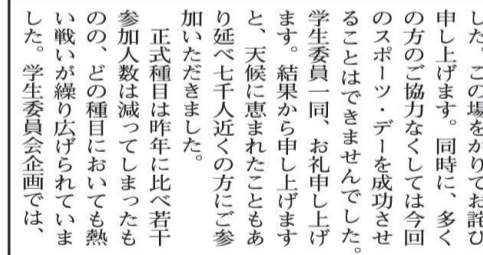
注目の選手 Pick up Player!



石津幸恵(体育1年)
主な成績
ウィンブルドン女子ジュニア/準優勝
カンガルー国際女子/優勝

去る7月、ドイツで行われたサッカー・FIFAワールドカップ女子大会で「なでしこジャパン」こと、日本代表チームが優勝し、日本の人々に強い感動を与えた。そんな彼女たちに続き、世界での活躍を期待される、筑波大学の選手を紹介したい。硬式陸球部に在籍する石津幸恵選手(体育1年)は筑波大学に通いながらもプロ選手として世界の頂点を目指している。これまでカンガルー国際女子テニス大会優勝、ウィンブルドン女子ジュニアの部で準優勝を果たすなど世界で活躍し、日本の女子テニス界を若くして引っ張る存在と言えよう。両親が学生時代にテニス部だったことがきっかけで四歳からテニスを始めた石津選手は次第に大会で好成績を収めていった。昨年はウィンブルドン・ジュニアでの準優勝などの成績を収め、高校卒業後10月に企業と契約しプロ選手への転向を果たした。それと同時に「勉強をテニスに生かして、文武両道の選手でありたい」という本人の希望で筑波大学への進学を決めた。職業選手としてのテニスプレイヤーであると同時に大学で勉学に励むという二足わらじの活動であるが、その意志はとて固い。プロ選手である以上、大学生の大会には参加できないが、コーチでもある父親の指導を受けながら日々、筑波大学のテニスコートで練習に励んでいる。

Sports Day 学生委員長 寄稿



みなさんこんにちは。スポーツ・デー学生委員長、小暮聖太(物理3年)です。この度、第35回春季スポーツ・デーにご参加いただいた方、ご協力いただいた方本当にありがとうございます。今回のスポーツ・デーは地震による会場の変更や広報物が遅れてしまったことで、多くの方に迷惑をおかけしました。この場をかりてお詫言申し上げます。同時に、多くの方のご協力なくしては今回のスポーツ・デーを成功させることはできません。学生委員一同、お礼申し上げます。結果から申し上げますと、天候に恵まれたこともあり延べ七千人近くの方に参加いただきました。正式種目は昨年比で若干参加人数は減りましたが、どの種目においても熱い戦いが繰り広げられていました。学生委員会企画では、

周囲の期待から来るプレッシャーで押しつぶされそうになったという。「あの時期はメンタル面で苦しみ、思い通りのテニスができなかった。完全に挫折に遭遇した」と当時のことを思い出していた彼女だが、「今はだいぶ落ち着いた」と付け加えた。国内外で素晴らしい成績を残している彼女の強みは何か。石津選手が自らを分析する。「自分はポジティブで気持ちの切り替えが早いタイプだと思う。挫折したときはこの性格が効いたのかもしれない。それからフォアハンドという打ち方ではだれにも負けないという自信がある」。技術面はもちろん、精神面でも強い武器を持ち合わせているようだ。

石津選手が目下の目標は世界ランクを一つもあげることだという。女子テニス連盟(略称・WTA)が発表しているランキングにはメディア等でよく見かける名前もあるが、そういった世界の強豪選手をこれからの本格的に相手にすることに。大学での活動とそこでこの目標について石津選手にお話を伺った。石津選手は筑波大学での活動に大きな希望を持っているようだ。「大学生生活を通してテニスの技術が向上したならば、助けられた仲間や指導者の方々に報いることができると思っています」と、強い眼差しとともに話した。

サークルR 女子ソフトボール部



筑波大学春日キャンパスに足を踏み入れると、グラウンドから大きな声が響いてくる。いくつかの部活やサークルと共に、女子ソフトボール部も春日キャンパスのグラウンドで日々練習に汗を流している。部員の所属する学群・学類は体育、国際、情報、芸術など様々。それだけに、練習以外では互いの学校生活の話で盛り上がる。そんな女子ソフトボール部は今、部員不足に苦しんでいる。大学院生を含め、現在の人数は試合に出場できるギリギリ。その上、毎回の練習に必ず全員で臨めるわけでもない。せつかつ時間と練習スペースがあっても、できる練習内容が限られてしまっている。それでも、引退したOGや院生コーチの支えのもと、3年生が中心となって知恵を出し合い、協力して活動してきている。だからこそ、支えてくれる

夏休みいかがお過ごしでしたか。私はというと、おそろしく来年度で学生生活が終わってしまったため、学生の特権である「学習」を利用してお得に夏を過ごしました。遊園地やプール、交通費も今なら学割がきいて安いですが、たぶん楽しんで楽しんでいきたいと思います(笑)。暑い夏が終われば、次は秋。食欲の秋、読書の秋、といいますが、秋といえば「おしゃべり」じゃないでしょうか。フアッションはもちろん、葉っぱも赤や黄色のおしゃれを楽しんだり季節感ですね。あ、でも秋にはスポーツがあります。スポーツの秋という言葉を聞いたとき、私は「おしゃべり」を思い出してしまいました。今年、どんな「おしゃべり」をして秋を楽しみますか。(上杉織美)

編集後記
夏休みいかがお過ごしでしたか。私はというと、おそろしく来年度で学生生活が終わってしまったため、学生の特権である「学習」を利用してお得に夏を過ごしました。

編集スタッフ
編集長 上杉織美(日3年)
主務 大庭 夏海(人文2年)
副主務 齋藤 千絵(比文4年)
編集 小島 菜奈美(資源3年)
有田 和晃(シス情2年)
田村 俊和(シス情2年)
本間 詩織(体育4年)
萩尾 奈緒香(社会4年)
明本 彩美(比文3年)
矢畑 冨佳(人文2年)
湯地 遼(人文2年)
小峰 朱理菜(人文1年)
三浦 加奈絵(比文1年)